

第2回非核平和都市宣言起草委員会会議録

日時：平成22年10月25日（月）13：30

場所：京田辺市役所4階403会議室

出席委員：水野恭子委員長・次田典子副委員長・河田美穂委員・井上昭弘委員
藤井重博委員・藤田晴子委員・村岡秀子委員・石田義樹委員

【次第】

- 1 開 会
- 2 委員長挨拶
- 3 自己紹介
- 4 第1回起草委員会後の取り組み
- 5 議題 起草文に盛り込む概要の検討について
- 6 今後の日程
- 7 閉会

【議事録】

1 開会

2 委員長挨拶

(委員長) みなさんこんにちは。秋はいろいろと行事がありまして、お忙しいところ、集まっていただきまして、ありがとうございます。第1回の起草委員会が8月6日に行われまして、この時には、起草方針、スケジュール、市民意見の募集手法などが決められたところです。本日は、起草文に盛り込む概要を検討していきたいということになります。期間的には、非常に短くなっております。今日が第2回で、第3回で大体の文ができればとなっておりますので、よろしくお祈いします。第1回の時に決めていただいた起草スケジュール案というのがありますが、第1回が8月6日で、今日が第2回で起草文に盛り込む概要の検討ということで10月25日、あと第3回、4回でまとめていくという方針になっておりますので、大変ですが、よろしくお祈いします。

3 自己紹介

4 第1回起草委員会後の取り組み

(事務局) 「第2回非核平和都市宣言起草委員会協議資料（以下「資料」という。）」1～4ページに基づいて報告。

5 議題 起草文に盛り込む概要の検討について

(委員長) これより議事に入らせていただきますので、よろしくお祈いします。それでは、「起草文に盛り込む概要の検討について」を議題といたします。事務局より報告お祈いします。

(事務局) 平和メッセージ集及び資料5～12ページに基づいて報告。

(委員長) 大変たくさんさんの説明で資料の方もたくさんありますので、質問とかがありましたら。

(質問なし)

(委員長) 本日の会議では、次の第3回の起草委員会において協議する起草案の(案)を作成するというので、起草案(案)に盛り込むおおまかな内容を検討するということになっております。今回、(平和メッセージが)359通返ってきました、そのうち、子供さんの応募が本当に多かったわけですけども、こういう声を十分に入れていけないのかなと思っています。まず、平和メッセージについては、起草の参考にするということになっていきますので、委員の皆さんの平和メッセージを読んでいただいている感想を述べていただければと思いますので、よろしくお願いします。

(委員) 膨大な資料で、子供さん達はよく平和の事を考えているなと思いました。次の世代を担う子供達が平和の事を考えてくれていて非常にうれしいなと思いました。本当に戦争を知らない人達が、これから、戦争をさせてはいけないわけですけども、その人達の思いも入れていく事が大切だなと思いました。今の話とちょっと違いますけど、非核平和都市宣言、非核というところにちょっとひっかかっています。非核兵器だと思えます。非核というと原発も入りますからね。核の平和利用ということで。私個人としては、原発も反対なんですけども、非核といった場合には、それも入ってしまうので、非核兵器平和都市宣言の方がいいのかもしれない。大人の方達は本当にみなさんの方のメッセージも全部そうだなということで、これを一つにまとめるのはなかなか大変だと思いつつ読みました。359人の方が少なくとも関心を持ってくださっていることは、すごくうれしいことです。この10人だけがやっているんじゃないという思いがすごくあります。

(委員) 年代別の応募数を見ましても、60代から80代の方に関しては、やはり、戦争体験の方とか、また、自分達が体験してきた思いを子供達に同じ思いを体験させたくないという強い思いが伝わってまいりました。また、小学生、中学生のみなさんが書いてくださっているメッセージを読ませいただきまして、自分達にできることは、なんでも協力したいとか、しますという言葉がたくさん見まして、すごいことだと思いました。今回、京田辺市としてのこのような取り組みをされたことによって、戦争を知ら

ない世代の子供達に大きな意識変革を起こしたのではないのかと思いました。角度は違うと思うのですが、年代別の応募数を見させていただきまして、20代から59歳までの世代の言葉が少ない、今回京田辺市として、このような取り組みをやっているということがどこまで浸透したんだろうかと感じました。町会、班長さんに配っていただいているのですが、次回こういう形で一般市民の方にも参加していただいて何かをするという時には、やっぱり違う角度もあった方がいいと思います。たとえば、小学校、中学校のみなさんに書いていただく時に家に持ち帰っていただいて、ご両親と一緒に考えて子供とともに、親にも出していただくとか。ということにすれば、親の側も、京田辺市としてやっているということがわかりますし、また、平和のことを深く考える機会にもなります。一番応募の少なかったのが子供達の親の世代ですので、応募にもつながっていくと思います。もう一つは、班長さんがポストに入れていただく時に、ひと声をかけていただくとか。こういう事をやっていますので、ぜひ参加してくださいというふうに。声をかけていただくのと、ポストに入れるだけで、見ないでそのままという形とは全然違うと思いました。

(委員) 学校では、子供達の平和についての考え方も、低学年高学年いろいろあると思います。子供達の実態からすれば、自分達の学校の中や学級の中での人間関係というところが基本になって、友達同士仲良くするというようなことから始まっていると思います。国全体については、これから勉強していく中身なので、なかなか難しいと思います。私自身も今までいろいろ勉強してきたなかで、平和というのはそう簡単なものではないという実態を見ています。武力とか核の問題だけで平和は語れない、非常に奥深いものがあるなと思います。最近、世界の中でのめごとがいっぱい起こっている中で、このメッセージを見させていただくと、相手を尊重するというのが基本なのかなと思います。相手の国を威嚇したりという事が行われていますので、そのあたりから基本的な考え方を直して行って、武力や非核をとという精神につなげていかなければならない。そのようなおおまかな流れを思っています。

(委員) 私は、さきほど少ないという言葉がありましたけども、よくこれだけ出してもらったと思っています。20歳以上の方からも、かなりの数が来ていますし、これだけ出していただいていたというのはすごいなと思います。読ませていただいている中でこれをどうまとめていくかというのは大変だなと思いました。あとは、それぞれの思いで出していかなければ仕

方ないのかなと思います。

(委員) これを読ませていただいてすごくいいことをたくさん書いていただいているんですけども、平和メッセージ集の中の18ページに、11歳の男の子が「ぼくは、平和の意味がよくわかりません。」と書いてありました。この辺が本当のことだと思います。戦争を体験されて平和の大切さがわかる。私は、平和な時しか知らないので、平和と戦争、平和と平和じゃないところを比較するのが難しい。平和しか知らないで、平和の意味がよくわかりませんという、平和にずっと暮らしてきて、平和ということを考えることもなく、平和ということがわからないというこの子供の気持ちがよくわかるなどこれを読んでいてすごく感じました。非核平和都市宣言の中で平和ということを見なさんにわかっていただく形でどう出すのかというのを余計に悩んできたところです。

(委員) たくさんメッセージを出していただいて、特に小学校から結構出していただいていますね。これは何か働きかけでもされたのでしょうか。

(委員) 学校ごとにお任せです。

(委員長) 箱は学校に置いてあったんですね。

(委員) そうです。校長会でこういうふうに取り組もうと打ち合わせをして、できる限り学校で協力してほしいとなり、協力的にやっていただきました。

(委員) 折り鶴もですね。

(委員) いろいろ子供さんが書いているのを見ると、素朴だし、実感がないんだらうなというのを感じました。逆に自分達が幸せだということで、実感としてとらえきれてないけども、こうあってほしいという願いは持っているんだと思いました。今回の協議資料の中の9ページのところにもあるように、60年間の重みというか、戦争を憲法によって、65年間一度もしなかった。人によっては、微妙なところがあるかも知れませんが、こういったことは、世界的には重要なことだと思います。こういったこともしっかりと実感としてとらえていけるような宣言になればいいと思います。

(委員長) わたしも読んで、子供さんがやっぱりこれをやることによって、平和を考えるきっかけができてよかったなと思いました。家庭でも学校でも、広島のはだしのゲンという本などをちょっと見たりとか、子供の絵本とかで戦争のお話なんかを家族でも読んだりするとか。「戦争は絶対嫌やね」とか、「戦争のない今にいてよかったとか」という声も出ています。親が言うというのが大事だし、学校でも平和教育が大事だと感じました。

(委員) 委員がおっしゃったことと似ているんですけども、子供達のメッセージを読みまして、大変心強く思いました。単に平和を望むということだけではなく、自分もこう行動したい、役に立ちたい、平和に向けて頑張る、そういう言葉が出てきてるんですね、いろんな自治体の宣言を見ていると宣言しているだけで終わっているのが多いんですね。中には、宣言することだけではなく、我々市もこういうふうに行動するとかね、そういうアクションの部分もうたってある平和都市宣言もあるんですね。うちの方も今回の平和都市宣言がどういう形になるかわかりませんが、宣言だけで終わってしまっただけでは、子供達にはずかしいなという気がしました。もう1つは、平和メッセージという問いかけに対して、子供達はちゃんと考えていまして、自然とか環境とかゴミ問題とか、そういう言葉もできますので、結構、地球全体を見て、自分達のまわりのことも考えてメッセージしてくれているなど。子供達の方が広い視野をもっているのかという思いがしましたので、そういったことも平和都市宣言に織り込めていったらいいなと思いました。

(委員長) やはり子供の声が多いということに対して、みなさんの意見も多かったと思います。さきほど、委員もおっしゃったんですけど、やはり、アクションを起こすというか、前向きな積極的な表現の仕方ができればいいなと思います。

それでは、各委員のみなさんに記入していただきました非核平和都市宣言草稿記入シートについてですが、シートのまとめで、「である」調と「です・ます調」では、「です・ます調」が7名で多かった。2番目の「京田辺市にちなんだ表現を入れた方がよい」というのが8名ということになっています。3番目に宣言文に入れた方がよいと思われるキーワードを5つ記入してくださいというのがあったわけですけども、この辺りでみなさんのご意見を聞かせていただければと思います。

(委員) わたしは、事前にいただいた資料の内容を見たときに、「しかるに」

という言葉を見て、「通じないな」という感じがして、役所言葉じゃないかと感じました。市民というのはいろんな方がいらっしゃるの、みんなが共通して、あそくだなと思えるような平易な文の方がいいんじゃないのかなと思います。「です・ます」の方が私はいいと思います。京田辺にちなんだ表現ということですが、京田辺を強調する必要があるのかなと思っています。平和とか戦争、非核とか、非戦とかは、世界中みんなの共通の願いなのに、特に京田辺の人たちが思っているわけじゃないですね。宣言文ができた、京田辺の市民が頑張りますというところに入るのならいいと思いますが、自然をまもるといったところで京田辺を入れる必要があるのかと思います。子供達のことをでていましたけれども、小学校で証言させていただいた時に、どこの学校も聞いてくださった方がみんな感想文をくださいます。子供達がみんなちゃんと聞いてくれているんですね。「もし、これから戦争が起こることがあったら、僕たちが戦争をやめさせます。」というような力強いことを言ってくれる子供達もいますし、「絶対に戦争はいけないことだというのがよくわかった」とか、本当に子供達は、素直に受けてくれて、平和が何かわからない子供達がそういうふうに言ってくれるのですから、とにかく、戦争体験というのは語り続けなければならないなというふうに思っていました。本当に子供達の意見をいれながらと思います。宣言文に入れるのは、非核、非戦、戦争をしないこと、恒久平和とか命とか。戦争をすると必ず命が奪われるわけですから、生きる権利、死ぬ権利がなくなってしまう。そういうものを入れてほしいなと思い書きました。

(委員) 「です・ます」調の方に私は記入しました。こちらの言葉の方がやわらかい感じというのと、思いが伝わるという自分なりの思いで書きました。京田辺にちなんだ表現ということですが、私も京田辺市に来てそんなに年数が経っていないものですから、あまりよくわからない。ただ、自然が豊かであるというのは感じます。少し前に新しい「暮らしの便利帳」が届きました。あそこに書いてあったのが、「京田辺市は、東には木津川が悠々と流れ、西には生駒山系に連なる甘南備山が控える豊かな自然に囲まれた町です。」とこれが本当に京田辺市を象徴するいい言葉を載せていただいているなと思い読ませていただきました。平和ということに関して、人間だけの命じゃなくて、そういう自然、植物であっても、動物であっても、全ての命を大事にするというところから、この京田辺のこの自然豊かな環境の部分とかいうのも入れれたらいいんじゃないのかなと思いました。文章がつながっていかないといけませんけども。そういう部分で私は入れた方がよいという方に○をさせていただきました。キーワードに関しましては、

やはり、さきほどからも言っていますように、今、戦争を知らない子供達が平和ってなんだろうと考えた時に、子供達の中で、さきほどもお話がありましたように、子供達同士の中でのいじめとか、また、ケンカとかであったりとか、深刻だと思っただけです。また、今、コミュニケーション不足を感じます。携帯電話を多用し、大人の世界もそうなんですけども、ケンカを謝るのも携帯で謝るといふ、目と目を合わせて謝るとか話し合うということがない、それが当たり前ようになってしまっています。本当に人を思いやる気持ちというところから平和というところにつながるのではないのかなと思います。人と人のつながりというか、それは、他人同士だけじゃなく、家族間であっても、また、地域においても、人間関係の希薄さというのがものすごく深刻な問題であると思いますし、一人暮らしのお年寄りの方でも孤独死というのがものすごくテレビでも言われていますけども、人間関係のつながりという部分から、自分だけがよかったらいという考えから、自分だけじゃなくて、人も一緒に励ましながら、平和な社会をつくっていくというところから、絆とか対話ということを書かせていただきました。

(委員) もう1回よろしいですか。平和というのは、戦争がないだけが平和じゃないということをよく子供達に言います。貧困とか抑圧とか差別とか全てのことがなくなると世の中は平和じゃないと。戦争がなくなるだけが平和じゃないと思っています。

(委員) 子供達は、自分達の生活の中からの平和ということを考えるし、それからだんだんと発展して、6年生ぐらい中学になったら、世界の平和ということも考えるようになってくるので、発達段階はあるなと思います。基本は、さきほども言われたように、命を大切にするという、これが、全てに通じる、平和に通じる、経済的な問題とか、貧困であったら、生命に通じることですし、それが基本になって、お互いを大切にすることになると思います。学級の中でお互いを大切にすることは学級目標でほとんど書いてあるんですよ。本当に実践されているのかというのは検証していかなければならないんですけども。お互いを大切にすることは、国どおしをお互いに大切にするという立場とか、相手を脅かさない、威嚇しないとか、そういうこともだんだんとわかってくる、憲法にもそういう言葉を使っていますね。そういうことで、言葉的には、「です・ます調」の方がやわらかいしいいなと思ったんですけども、強調するところは「である」ぐらいの方が強調しやすいし、どちらも必要かなと思います。そ

これは、みなさんの意向でどちらでも結構です。平和というのもあまり武器だけの問題にしぼらないでやっぱりそういうことから考えるような起草案にしてもらったらありがたいです。

(委員) 実は、これを書くときにどうすればいいのかと、実は、私なりに平和宣言文をつくって見たんです。この中にどういうふうに入れられるのかなと思いつつながら。やはり、「です・ます調」の方がいいのかなと。(京田辺市にちなんだ表現については、) せっかく、京田辺市でつくる宣言ですし、入れた方がいいと思います。この中で1つだけぜひ入れてほしいのがあるんです。2010年、今年、昨年のオバマ大統領のプラハ宣言のあれをふまえて、今年、ちょっと大きく動き出しましたね。ちょっと、あと、みそをつけてますけども。平和記念式典に英米仏、それから、国連事務総長が、はじめて参加したというこの記念の年というのを、宣言文の中か前文かどこかに入れてほしいなというそんな思いがあります。それをふまえて今年起草したんだというね。この記念すべき2010年、これをふまえて起草したんだ、そういうところを入れてほしいというのが第一前提にあります。それと、いろいろ出させてもらったキーワードもうまく入れていただければなど。京田辺市ということについては、それなりに入れられるんじゃないのかなと思って書いています。やっぱり京田辺市がどういう姿勢で市政を行っているのかという、それが宣言文にどうつながるのかというのをそういうところを出せればと思う。わたしたちは、愛すべき自然を未来に残して、ひきついでいくためにこの宣言文をつくるんだ、そういう思いを出していったら、京田辺市というのが出てくるのかな、そんなふうに思いました。

(委員) わたしは、「である調」の方がいいかなと思ったんです。強調もされるし、文章が「です・ます調」だと長くなって読みづらいんじゃないかなというのを、いろんな文章を見てみたらそんな感じがしたので「である調」がいいのかなと。その時は、思ったんですけど、今、みなさんの意見を聞いて、やっぱり、思いを込めるには、「です・ます調」がいいのかなとその辺は、今揺れ動いているところでございます。京田辺市のことをというのは、他の市のも読むんですけども、どれがどれ、みんな一緒というようなことになっているので、さきほども言われたように今年出すという意義を書くとか、やっぱり、京田辺市が今出すという意味を出した方がいいと思うので、京田辺市の何かは、これを読んだら、京田辺市は平和のために何か考えているのだなとわかるような何かがあった方がいいのかなというの

を考えて、何か入れた方がいいと思います。非核というのを書くとなると、世界唯一の被爆国である、被爆国の国民であるというのをしっかり入れていった方がいいと思います。子供達も知らない方が増えているので、その辺を強調して、なぜ、非核と平和を日本国民として訴えているのかと言っていきなと思いますし。市長の思いを次でもいいので、言っていたければと思います。市長が（宣言を）言われるので、私達が決めたものを読まれるのではなくて、京田辺市としてのことを入れるとするとなおさら、市長の思いを参考に考えていきたいという部分もあるので。市長が、非核とか平和についてどういう考えをお持ちで、どういう起草案を作っていたかということ、次の時にでも来ていただいて、短くてもいいですし、お話いただけると。

(委員長) 一回ぐらい市長に来ていただいた方がいいと思います。過程のところも聞いていただけたらいいと思いますので。

(委員) 町が宣言をするということがすごい大事な事だと思うのは、日本の国のそれぞれの自治体がみんなのいろんな思いをあげていくという意味でこういう宣言というのが大事だと思うんです。できるだけ、わかりやすく、みんなの心に残るようなものになったらいいと思うんですが。どうしても、「である」というふうになると、強く感じてしまって、「です・ます調」の方が市民に文章をあげていくにはいいと思って「です・ます調」の方にさせていただきました。京田辺市にちなんだ表現というので、すごく迷ったんですけども、表現を入れることによって、地域性だけが重んじられるみたいなことになりかねないような文章ではない方がいいと思います。北海道の（北見市）なんかはうまくいれておられるなと思ったのは、第1回起草委員会の参考資料6ページの「澄みきった青い空のもと、大雪連峰とオホーツク海にいだかれたみのりの大地を大切に守り」これ雄大な雰囲気があるじゃないですか、こういう感じで入っていくのは、自分達の町の「緑豊かな」というのも出てましたけども、こういう所からもこういった平和を願っているんだよということを表現するには、すごくいいのかなと思います。核兵器のお話もあったんですけども、核兵器だけでなく、非核で平和を守っていくということも大事なかなと思います。65年間、平和が守られた根幹は何だったのか、いろいろ議論はあるとしても、憲法の中で守られてきたと思うんですね。そのことを憲法であげられた恒久平和という、そういった理念が、これからも守っていく一番大きな要素、力になっていくと思いますので、その文章をぜひ入れていただきたいと思っています。

(委員) 「です・ます」「である」は、私も「です・ます」にしました。京田辺市のことですけども、資料の11ページの下3つが私ですが。委員がおっしゃいました、宣言文の中から市の名前を取ってしまえばどこの宣言かわからない、あるいは、どこでも通用するような宣言が多いので、結果的には、一般的な表現になってしまっているということなんです。それもそれでいいと思うんですけど。京都府内の宣言はほとんどがこのケースです。舞鶴市と京田辺市とを付け替えても通用します。委員が「東に木津川、西に甘南備山」とおっしゃいました。私も(資料の11ページ)一番下に書いていますように、世界の平和を実現して、未来の子供達に残したいと思うのは、どんな京田辺市なのか、それを、たとえば、豊かな自然とか歴史と文化とかこういうことをあげましたけども、そういうのを宣言の中で示せば子供達にもわかりやすいでしょうし、田辺から発信しているんだということにもなると思います。

(委員長) 私も思うのは、唯一の被爆国や核兵器をなくしていく決意というものは入れていく必要があると思います。「です・ます調」については、私も「です・ます調」にしました。京田辺市にちなんだというのも、入れてはいいのではないかなと。京田辺市はまだまだ緑がありますし、そういう緑とか自然がだんだん破壊されてきているという感じがするんですけども。自然を残すには、平和でないと残らないわけで、未来の子供達に自然とか緑とかを残していくのが大事だし、そういうのを入れていった方がいいと思います。日本の国だけがいくら核兵器を持たないと言っても、世界全体が核兵器を持たないということにならなければ、地球が破滅してしまうわけで、そういう意味では、大きな世界的な平和というのか、地球を守っていくというのを入れないと京田辺だけ日本の国だけの問題ではないだろうというふうに思います。そのへんのところはいれてほしいと思います。現在、テロとかも行われているし、よその国で核兵器を持っていること、兵器とか、戦争とかもやっているし、そういうことをなくしていかないと、平和というのは勝ち取れないと思うので、その辺の世界の状況なんかもいれていただいた方がいいのかなと思います。みなさんの意見がいっぱい出て、まとめる方が大変じゃないかと思います。

みなさんの意見を出していただきましたので、そういう声をいれていければと思います。

(委員) ちょっと気になるんですけど、世界唯一の被爆国という表現なんですけど、核実験してましたら、された国は被爆して、そういう意味で日本

だけが被爆国ではなくなっている状態があります。実験に使われた島だとか国というのは、子孫にも影響が出ていますし、そういう意味では、力の強い国によって被爆させられている。そういう意味では、どうかなと思います。

(委員) 原子爆弾というのを使われたのは日本だけですよね。2個しかなかった原子爆弾が長崎と広島に投下されたわけです。本土が核兵器を受けた被爆国です。被爆を受けた人類はたくさんいるわけです。日本の中にいた捕虜なんかの人達もいろんな国の方達がいらっしゃる。被爆の国籍というのはたくさんあるわけですが、爆弾を直接自分の本土に落とされたのは日本だけです。劣化ウランとか放射能とかはもちろんありますけども。爆弾としてあの時2個しかなかったものを落とされたのは日本だけです。私が考えた文の中では、自分の国が、本土が、核兵器、原爆を落とされたという言い方で、唯一自分の国土に原爆が落とされたという表現をしたんですけど。被爆者はいっぱいいますね。スリーマイルの人達もそうですし、ウランの鉱石を発掘するところもそうですし、思いがけないところから、地下実験で、思いがけないところから出てきて被爆した人もいますし、世界中には被爆者がいっぱいいるんです。爆弾で被爆したのは、その2つだということを私は表現しました。どういう理由であれ、被爆してはいけないんですね。

(委員) 広島の宣言文の中にも唯一のという表現はなかったのではないかなと思います。

(委員) 唯一の被爆国ではないんですね。核兵器による被爆国、核兵器を中に入れないことには唯一にはならないんですね。

(委員) 他の国の人達も被爆していますからね。だいぶ前の話ですけども、中曽根さんが広島にいらした時に、広島原爆ドームに行って、唯一の被爆国の首相ですと言って、その時、患者さんは、韓国の方で、すごくひんしゆくをかったということがあります。被爆された方はたくさんいるが、本土が爆弾にさらされたのは日本だけです。

(委員長) いろいろ意見が出てきたんですけども、まとめて、第1の「である調」と「です・ます調」という分につきましては、「です・ます調」が多数の意見ということになっていますので、この点では「です・ます調」で

いいと思いますが、その点については、よろしいですか。

(異議の声なし)

(委員長) 次に京田辺市にちなんだ表現を入れた方がよいという意見が多いと思いますが、その辺で違う意見もありました。

(委員) 非核の問題、戦争の問題というのは世界的な問題なので、京田辺を強調してしまうと、すごく矮小化されてしまう気がします。もちろん、文のどこかで入って、最終的に、京田辺市がこれを宣言しますという文はいいと思うんですけども、途中で何か入れてしまうとちょっと弱くなるのではないかなと思います。私は、多分、いろんな所に住んだので、京田辺だけに住んでいたわけではないので、余計にそういう思いがあるのだと思います。広島にも住んでましたし、長崎にも住みましたし、熊本とかいろんな所に住んでいました。ここだけというのをあまり私自身はしなくてもいいのではないかなと思います。みなさんはここにずっと住んでらっしゃるかもしれませんが。

(委員) 今のご意見はすごくよくわかるんですけども、我々、身近なところで何ができるのかというのがメッセージの中でも一番出てきている問題なのだと思います。そういう大きな問題なんだけども、では京田辺市民としてどういうふうに動いていくのかという、そういうところはやっぱり必要ではないのかなと思います。そうしないと、言われてたように、入れ替えたら全部同じという形になってしまうのはちょっとさびしい。

(委員) 前の平和都市宣言も私は引っ越してきた時はすごいなと思った。大きな看板が出てて。でも、それ以上は、なにもなかった。宣言をしたら、全部に行き渡るのは難しいかもしれないけど、かなり多くの人達が意識できるくらいのなんかイベントじゃないですけど、みんなに浸透する何かをした方がいいんじゃないかなと思います。関心のある人は、その看板を見たら、すごいな、この都市はちゃんと平和都市宣言をしてるなと感激して見るんですけども、何か行動していくというものを。

(委員長) 京田辺の議会の宣言決議については、京田辺市民みたいな京田辺市の中のことについては載ってないわけですね。全体的な非核というのがうたわれています。特に昭和60年という時代もありますし。

(委員) 全部網羅されているんですもの。

(委員長) そうですね。それから何年かなるわけで。

(委員) (表題に) 非核と書いたら、形式的には、非核平和都市宣言となる。それでいいという感じになりますよね。

(委員) 核軍縮というのもちゃんと入っていますね。

(委員) そういう形でいくのか、何か具体的なものをいれるか。

(委員長) 京田辺市の方から発信しているという思いが何か。どこにいれるかは別にして。

(委員) 何か作っていらっしゃるんでしょう。たたき台を。

(委員) これは、私がメッセージを見ながらどういうふうにとまとめられるかなということで自分なりに作ってみただけのことなんです。

(委員長) それぞれ自分で自分なりに作っていただいて、また、出していただいてもいいんじゃないかなと。

(委員) この前の(非核平和都市宣言草稿記入シート)は違うのですか。私は、書きましたが。

(委員長) あれは、そういう思いを書いてくださいということで。宣言の中に入れるキーワードはこういうものというのを書いてもらって、それが、結局は、宣言には、なるんですけどね。私達が書く平和の思いだとかが。

(委員) たとえば、私が、京田辺を入れるといいながら、それ入っていないじゃないかと言われれば終わりなのですが。最後の方に「私たち京田辺市民は、核廃絶を強く訴えます。私たち京田辺市民は、日本国憲法に掲げられた恒久平和の理念を市政に生かし、緑豊かで健康な文化田園都市作りをめざします。私たち京田辺市民は、この愛すべき豊かな自然と歴史に満ちた郷土を子々孫々まで継承するために、非核平和都市たることを宣言します。」こういうふうな文に作って見たんです。そこで京田辺というのを強調

しました。最初から読みます。「やすらぎと希望に満ちた平和な日々を送ることは、人類共通の願いです。この切なる願いにもかかわらず、この地球上では、各地で紛争が起き、戦火の絶える間もありません。さらに、地球をも破壊しかねない大量の核兵器が蓄積されています。2010年、米国のオバマ大統領が「核廃絶を目指す」と明言したプラハ演説の実現に向けて行動を開始しました。広島での平和記念式典には、米国大使をはじめ、国連総長、英仏代表が始めて出席し、世界が核廃絶に向けて動き出した記念すべき年となりました。私たちは、世界唯一の核被爆国民として、薄れつつある核兵器の惨状の記憶を新たにし、

ここで平和運動のことを入れたいと思ひまして、

「記憶を新たにし、再びこの地球上に広島、長崎の惨禍を繰り返してはならないことを、全世界の人々に訴えていかなければなりません。私たち京田辺市民は、核廃絶を強く訴えます。」という文面に続いています。

これは、どういうふうメッセージをよみながらまとめられるのかな、作れるのかなということを考えながら作って見たんです。この中に私が言ったその京田辺というのが、入っているのか、入っていないのか、一応、そういう文面にはしてありますけど、それを入っているととれるのか。それから、唯一の被爆国民としてというのを、意識を新たにしていかなければいけない。これは入れていきたい。それと、2010年のこの記念すべき年としてのという部分です。やはり京田辺市というのは入れた方がよい。

(委員) 一回みんな書いてきます。

(委員長) まだちょっと次がありますのでね。

(委員) 書いてこなくてよかったんですか。(非核平和都市宣言草稿記入シートの) 4番のところで3例書くように書いてあって。

(委員長) 4番のところにも3つ。同じような質問が。

(委員) 文を作っていなければならないのではなかったのですか。

(委員長) 入れた方がよいと思われる文章なんで、こういう文章を入れた方がいいんじゃないかなということで3つあげていただく。

(委員) 簡単でよかったんですか。

(委員長) 簡単で。

(委員) 必死で3つ文を作ったんです。

(委員長) 読んでいただけたら。

(委員) 読んでみます。「戦争も核兵器もない平和な世界は、すべての人々の望みです。唯一、自分の国土に原爆が落とされ、その惨禍を知っている私達は、二度と核兵器が使用されることなく、すべての国の人々が平和で、安心して暮すことが出来る様、」
ここの中に差別や貧困が入っているんですけどね、平和で安心して暮らすという
「非戦の思いを深め、核廃絶を願い努力することを宣言します。」
そういうふうみんな書かなければいけないと思って一生懸命3例作ったんですけども。

(委員長) キーワードと文章は同じような感じになってしまいますものね。

(委員) 同じですから、それを一つにするのに分散するように記入しました。

(委員長) 第1回の起草委員会で子供にわかりやすいような表現というか、そういう宣言がいいんじゃないかという意見があったんですけども、この辺については、子供さんの意見もメッセージでたくさんありました。わかりやすいという点について、どのようなご意見をお持ちになっているか出していただけたら。
また、子供さんの声も、メッセージでありましたけど、どういうものを入れていったらいいのか、その辺でご意見をいただけたら。

(委員) せっかく、こういう形でたくさんの子供達が出てくれていますので、これを文章に入れるとしても一部分だけになると思うんですね。出していただいたメッセージを何か形にして残せないのかなというのは思いました。自分もそれに参加したんだ。非核平和都市宣言を見ても自分が出した言葉が載らないのはほとんどですよ。京田辺市として形にして残しましたよ。皆さんが出してくれたのはとなった時に参加した意識がもっと深まると思います。

(委員長) 大事なことですね。

(委員) 大人用と子供用と2つ作ったら。これから、大事になっていく子供達が平和の事を考えて、それこそ、平和の事をわからない子供達が平和の事を考えてくれるわけでしょう。大変なんですけど。やっぱり、大切にしたいと思いますね。

(委員) 子供にわかりやすくということになると難しい部分があるんですけど。3百何人の方のご協力があったというような後書きをいれるとか。こういう方のメッセージのおかげで起草文ができあがった。自分が参加したというのが、文章的には残らなくても、何らかの形で載ったらいいと思います。

(委員) さきに、市長の思いとおっしゃいましたけども、市長が起草委員会を立ち上げていただきたいと考えましたのは、オバマ大統領のプラハ演説がきっかけの1つなのかなと私なりに思います。宣言文は、平和都市宣言、昭和60年の議会のこれが考え方の基本になっていくと思いますが、堅いですね。子供を視野に入れたら、例えば、「いろんなメッセージを募集して、子供達からこんな意見が来た。」というのを、子供達の意見をちょっと紹介してもいいわけですね。堅苦しい宣言をしなくても、詩のようにね。詩のように、子供達はこのような思いでメッセージをくれましたと。それを凝縮した形で子供達はこう思っていると。最後に締め方は難しいですけども、一風変わった独特の京田辺バージョンの平和都市宣言というのもいいと思います。京田辺市から日本国中、あるいは、世界にいかん発信するかでしょう。ちょっと一風変わったような、インパクトのある宣言だけでも、詩のような、やわらかさ、わかりやすさがあつたら。

(委員) どこかで見たんですけど、たとえば、(メッセージを)一つに寄せて柄にして封筒を作る。そういうのとか、スカーフのようなものもあります。このメッセージをこれで終わります、ここからとってありがとうございますだけでなく、後々どこかに自分のが載っていると思いついて使えるようなことを考えて記念になるようなものを作ってみてもいいかもしれませんね。イメージがわかりにくいかもしれませんが、例えば封筒とか、前は朝日新聞のエッセイなんかをゴミ箱の底の柄にしたりとかあつたと思います。市役所で使えるようなものでもいいし、よく便せん裏に柄がいっぱいあつて表は線だけとか、そういうものにしてもいいかもしれません。

お金がかかるといわれるかもしれませんが。

(委員) わかりやすいというのが一番だと思います。

(委員長) イメージ的に最近宣言した各市の資料をいただいているのですが、ここには、短いのと長いのとがあるわけですね。さきほど委員がおっしゃっていたように、ここ以外にも詩のように書いているところもありますね。米原市だったか、ネットで出してきたんですけども、「私たちのまち まいばら には 青い空と緑にはえる山々 清流のせせらぎ みのり豊かな田園 母なるめぐみの湖(うみ)がある」とずっと書いてあって、そこで一つ詩的に区切って、「悲惨なヒロシマ ナガサキの体験から 核兵器を「持たず 作らず 持ち込ませず」の 非核三原則を全世界に訴え 戦争の放棄 恒久の平和を誓った 平和憲法を 私たちは 守ります」とか「私たちは 知っている すべての人間が手をつなぎ 平和な明日に向かって力をよせあうことが どんなに大切に すばらしいかを」一つの区切りみたいなものを作った長い宣言文もありますね。

(委員長) イメージ的にはみなさんどんなふうにお考えですか。詩みたいなものもというのもあったら、それはそれでいいんですけど、詩を作ることを考えないとだめですし難しいですね。

(委員) あまり長いと読む方がいらっしやらないのでは。市民といっても、いろんな方がいらっしやいますから、一生懸命読んでくださる方もあるでしょうけど、ぱっと見て、あそうだなというぐらいであんまり長くない方がいいのでは。昭和60年宣言文には、京田辺のことは載ってませんから、最後のところには京田辺とありますが。

(委員) これを「です・ます」にしたらいぶやわらかくなりますね。「我々は」を「わたしたちは」とかね。そういう風な表現に変えていくとちよつとずつわかりやすくなりますね。

(委員) 非核も入っていますしね。

(委員) 平和都市宣言だけでも、非核が入っている。

(委員) あえて、起草委員会を作ったということは、市長さんは、これより違うものをお考えおられるのかなと。確かに簡潔でいいんだけど。これでいいのかな。言いたいことは、ちゃんと書いてあります。一番上を書き直したらいいということにもなってしまいます。

(委員) もうちょっと練って。

(委員長) そんなに長くないものでということで。京田辺市という表現もどこかに京田辺市から発信していくという意味では入れてはいいんじゃないかという意見もありましたので入れていくとか、世界唯一の被爆国とか、ここに書いてある内容は本当に入れていかなければならないのではないかと。できれば、せっかく子供のたくさんのメッセージをいただいているのでそういうのも少し入れればいいんじゃないかなと、難しいんですけども。

こういうこともふまえて、第3回の起草委員会については、皆さんの意見をいただいて、事務局の方でもたたき台を作成してみると言っただけですし、委員からもたたき台を出していただいておりますし、皆さんも次の時には、宣言文を持って来ていただければと思いますが、どうでしょうか。全員が出なくてもいいと思いますし、お互いに意見交換として、事務局もみんなの意見を取り入れて作っていただくということではないでしょうか。いいですか。

(事務局) 一つ考えてみます。

(委員) みなさんも考えてもらったら、全体どうこうというよりも、素晴らしい表現が出てくると思います。それを組み合わせればできるかなと思います。

(委員) 作ってみます。

(委員) 挑戦してみます。

(委員長) 事務局の方も作成していただいて、委員さんの方も作成していただきたいと思います。これについては、まとめて作らなければなりませんので、10日までに事務局に提出していただきますようお願いいたします。

本日の予定の議題は以上ですが、みなさんから何かご意見とかありますでしょうか。

(委員) さきほどもありましたが、たまには、市長にも出ていただいて。

(委員) ちょうど、次回は、たたき台が出てきているので、(市長が) 私は、これでいきたい。これが私の思いだったというのが出てくるかもしれない。

(委員長) 市長もいろいろ思いがあるでしょうし。

(委員) いろいろ思いがあると思います。

(委員長) 1回出てきていただいて、ご意見とか聞いていただいたら。

(委員) 思いをおっしゃっていただいたら。

(委員) こないだのアメリカの臨界前核実験の時にいち早く抗議文が出されて、こういう（起草委員会を）立ち上げてる市としては、すごくいいことだと思います。

(委員長) 市長にもその旨伝えていただいてよろしくお願ひします。これで、ご意見もないようですので、本日の議事は終了いたします。皆様のご協力をもって、議事がスムーズに進行できましたことを感謝申し上げます。ありがとうございました。

6 今後の日程

7 閉会